

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

6月1日 (No.50・温暖化で熱帯雨林的気候か号)

2008
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：山崎 光久



勝手にレッドデータ of 志木 (36)

カントウタンポポ

すっかり少なくなったカントウタンポポが、柳瀬川駅のセブンイレブン裏手の柳瀬川土手で、一株花を咲かせていました。

セイヨウタンポポは、花の下側のがくの部分（総苞）の外側が反り返っていますが、カントウタンポポは反り返りません。また、セイヨウタンポポは一年中花を咲かせますが、カントウタンポポは春にだけ花を咲かせます。

いろは橋の宗岡側や宗岡第三小学校の前あたりは、よく探せば見つけることができますが、花が咲いていないと区別が難しいでしょう。

(山崎 光久)

エコシティ志木 2007年度の報告と 2008年度の予定

代表理事 天田 眞

エコシティ志木 第6回（2008年度）総会は5月18日（日）に開催され、3つの議案が承認されました。

第1号議案 2007年度事業報告、決算

第2号議案 2008年度事業計画、予算

第3号議案 役員の改選

● 2007年度の主な活動

07年度の主な活動は以下のとおりでした。

◆ 環境、施設の保全・管理及び創出事業

①斜面林の手入れ（西原斜面林の清掃、下刈、野草の保全、散策路づくり、堆肥づくり等）

②外来植物駆除作戦（オオブタクサ・アレチウリの抜き取り、志木中との協働）

◆ 調査、研究事業

①柳瀬川・野鳥&川の生きものウォッチング（野鳥調査と魚類・水生生物調査、水質調査、水際や刈残し部分のごみ拾い）

②身近な川の一斉調査（宗岡中科学部と市内8カ所の河川水や湧水を調査）

③埼玉県内一斉ガンカモ調査（柳瀬川を担当）

④環境プラン見直しプロジェクト（今回で終了し、市の環境基本計画見直しに続けます）

◆ 観察会及び学習・教育事業

①こどもとおとなの自然塾（野草、鳴く虫、冬鳥／教育サービスセンター後援）

②柳瀬川をぶらり散歩（柳瀬川沿いに2回に分けて狭山湖までウォーキング）

③講師派遣（小学校の総合学習やヤゴ救出、クラブ等）

④ボランティア・NPO活動体験者受け入れ

⑤いろは遊学館「ふれあい祭り」、志木おやこ劇場「こどもまつり」、志木市商工会「カップふれあい展」への参加

◆ 出版、広報事業

①「エコシティ志木通信」「イベントカレンダー」の発行（年4回発行）

②ホームページ管理（エコシティ志木のHP）

③活動紹介展示（催事でのパネル展示等）

◆ エコツアー事業（河童のつづらの活動）

①お宝発見ツアー「宗岡ぶらり散歩」（宗岡の治水遺構を訪ね歩くエコツアー）

②お宝マップづくり（検討作業を継続）

②ホームページ運営（河童のつづらのHP）

● 2008年度の主な予定

前年度の事業をほぼ継続していきますが、重点活動や変更点は次のとおりです。

● 西原斜面林は区画整理組合による工事が進行中ですが、当会の活動は一時中断し、工事終了・市へ移管後に再開する予定です。代わって、いろは親水公園こもれびのこみち斜面林で活動を始めます。また、余裕があればその他の樹林地についても取り組みたいと考えています。

● 外来植物の駆除は回数を増やし、柳瀬川河川敷の志木大橋～高橋間のオオブタクサとアレチウリの徹底除去に取り組みます。また、より多くの市民の活動に拡げられないか検討していきます。

● こどもと大人の自然塾は近年の参加者数の減少が課題ですが、新たに企画した柳瀬川や宗岡の「ぶらり散歩」は好評でしたので、当会ならではの視点をもったエコツアー的ウォーキングを企画します。

● お宝マップを完成し印刷・配布の予定。

● 10年前の志木市環境基本計画策定には当会会員が多数参加しましたが、今年度は目標年度到達に伴う見直し作業が、当会理事5名も参加する「環境市民会議」（委員19名）により進められています。以前の計画は市民主体で策定されたことで注目されましたが、その後の推進がうまくいかなかった経緯があり、今回はその反省に立ち、計画策定がそのまま推進につながるように、市民会議は策定から推進までを担っていくものとされています。

当会ではこの動きに積極的に関わりながら、会員の皆さんには通信等で進捗状況を報告し、また、ご意見ご提案を計画に反映させていく方針です。

3/2
(日)

宗岡をぶらり散歩 ～水と人との関わりの歴史～

3月2日、水と人の関わりの歴史を求めて、江戸・昭和・平成時代の新河岸川の堤防や樋門、水害に備えて築かれた水塚などを訪ねて宗岡地区をぶらり散歩しました。

志木市教育委員会の後援を得て、当会と（財）埼玉県生態系保護協会志木支部の共催で、24名の参加者での開催となり、市外からの参加者にも好評でまずまずの会となりました。【資料・解説＝天田眞】

主なコースは次の通りです。宗岡に残る治水の知恵を探索するコースとして、今後は定番としてアピールできればと考えています。

◆いろは商店街（奥州街道引又宿跡・市場通り）

富士道入り口交差点から道幅が広がる区間は野火止用水が道の真ん中を流れていた。



写真＝山崎光久

◆いろは樋の模型展示・レンガ大枡等

◆旧村山快哉堂

1877年（明治10年）に建築された土蔵造りの店蔵で、1995年（平成7年）に解体され現在地に移築復元したもの。

◆宗岡閘門跡

◆江戸・昭和・平成時代の3本の堤防

いろは橋下流の約600mの間には江戸～大正期の惣囲堤（新河岸川除堤）、昭和期の堤防、平成期の堤防が並行しており、三百数十年も前からの治水手法の変遷が見られる。昭和の堤防と平成の堤防の間は20数年前まで住宅地だった。

◆下の谷堤

◆水塚

宗岡地区に50基程残っており、避難用の船を保存している家もある。今回のコース沿いには10ヶ所の水塚がある。

◆レンガ製樋門

北美塚樋：堤外側の両袖壁と左側の樋管は近年増設されたもの。

◆道興准后歌碑 ◆上の氷川神社 ◆千光寺

◆佃堤

大部分は道路建設で失われたが、惣囲堤のなかでは佃堤だけが道路にならずに昔の姿を残している。

◆荒川の堤防と横堤

堤外の水田は耕地整理されずに昔の区画を残している。

◆産財氷川神社（中の氷川神社）

本殿は明治14年に竣工した彫刻が施された質の高い建造物。本殿の隣に御嶽山がある。

◆旧奥州街道

◆宗岡浄水場

壁面に主な洪水水位と新旧の堤防高さの表示がある。

◆郷土資料館

宗岡閘門の機械設備が入り口に展示されている。引又宿絵図等の文化財あり。

◆最後に宗岡公民館で懇談会を行って解散しました。（毛利将範）

4/27
(日)

こどもとおとなの自然塾(1)

春の野草を見てみよう

前日には雨が降り、天候が心配されましたが、幸い穏やかな天気にも恵まれました。

午前9時に柳瀬川サミット前に集まったのは、総勢20名(うち子供1名)でした。

志木市立教育サポートセンター磯所長の挨拶の後、早速2グループに分かれて柳瀬川沿いに観察を開始しました。



参加者は、花の名前の由来や、「カラスノエンドウ」と「スズメノエンドウ」の違いなどを実際の野草で確認しました。今年は「オニタビラコ」と「コオニタビラコ」など比較する野草を多く見ることができました。

3月が暖かったせいか、イネ科の雑草の成長が早く、河川敷も人が通るところを除いては、膝上まで伸びていたため、背の低い野草は目立たなくなっていました。例年観察される「アカバナユウゲショウ」、「ナガミヒナゲシ」「セリバヒエンソウ」は残念ながら見る事が出来ませんでした。「オヘビイチゴ」「カントウタンポポ」などは、観察会では初めてでした。

観察された野草はカキネガラシやウシハコベなど約54種類で、会員の田村さんが当日の朝、事前に名札を花につけてくれたのがとても好評でした。
(山崎光久)

3/23
(日)

茶の都^{くに}いるま 湧水シンポジウム

～里山が育むホタルと湧水の保全・復活～

入間市の狭山丘陵や不老川流域に湧き出す湧き水の存在と魅力、湧き水が育んできた生き物、湧き水と地域の暮らし、文化について学ぶことを目的にしたシンポジウムで、3月23日(日)に入間市立藤沢公民館で入間市主催、環境省共催により開催されました。

筑波大学の恩田裕一准教授による基調講演では、森林による水源涵養機能についてフィールド調査のデータなどをもとにわかりやすく解説いただきました。湧き水を守り育むため、狭山丘陵周辺の里山保全を行い、その流れを不老川流域(※)につなげていくことの大切さについて考えさせられました。(伊藤智明)

※不老川流域＝東京都西多摩郡瑞穂町から埼玉

県入間市、所沢市、狭山市、川越市などをおり新河岸川に合流する一級河川。1983年から3年間連続で「日本一汚い川」であった時期もある。



狭山丘陵から湧き出る湧水

5/4
(日)

アレチウリ抜き取り

皆さんは昨年の夏から秋にかけて、柳瀬川の川に近い部分をつる性の植物が一面に覆っていたのを覚えていらっしゃいますか。

特定外来生物に指定されているアレチウリです。

アレチウリは北アメリカ原産のつる性の一年草で、1952年に静岡県清水港で見つかり、その後各地に広がりました。河原や荒地地に多く、生育速度が非常に速く、長さ数～10数メートルになり、群生して他の植物をおおいかくすため、他の植物がほとんど生育しなくなります。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、平成18年2月から、生態系等に被害を及ぼす「特定外来生物」としての適用を受けています。

NPO法人エコシティ志木と埼玉県生態系保護協会志木支部は、柳瀬川にこのアレチウリが繁茂する事に危機感を抱いております。

そこで5月4日（日）に、有志7名で柳瀬川鉄橋から志木大橋に向って約200メートルの間で抜き取りを行いました。約10～20cmのアレチウリを2時間で約7000本抜き取りました。アレチウリのツルは弱く、大きくなるとぷつんぷつん切れて元から抜く事ができませんので今の時期が最適です。

5月中にもう一度抜き取りをする予定ですが、なによりも人数が必要になりますので、市民運動で実施できないか検討しているところです。ぜひご協力をお願いいたします。（山崎光久）



お知らせ

◆マイバッグキャンペーン統一行動

昨年12月に「マイバッグ宣言」を表明した志木市では、6月の環境月間と10月の3R推進月間に合わせ、マイバッグキャンペーンを実施します。当会も協力して、レジ袋を断るなどマイバッグ持参の統一行動を行う予定です。

【期間】 6月1日（日）～6月30日（月）

【主催】 志木市マイバッグキャンペーン実行委員会／志木市

◆講演会「フードマイレージってなあに？」

食とエコ～安心できる食べ方、暮らし方～

【日時】 6月28日（土） 13時30分～15時30分

【会場】 柳瀬川図書館 2階「視聴覚室」

【講師】 中田 哲也氏（農林水産省 北陸農政局 企画調整室長）

【費用】 200円（資料代）

【主催】 NPO法人「志木の輪」/カーシェアリングの会・はらっぱの会



↑ 柳瀬川の河童さま (内田栄信さん作)

河童ものがたり

志木まるごと博物館 河童のつづら担当

毛利将範

柳瀬川には2つの河童伝説が残っている。1つは所沢市久米の持明院に伝わるもので、和尚に差し出した「河童の詫び証文」。もう1つは志木市柏町の宝幢寺(ほうどうじ)にかかわるもので、河童が和尚に助けられた話。じつは「志木まるごと博物館 河童のつづら」の名誉館長は、このときの河童、もしくはその子孫を想定している。

宝幢寺の話は文化6年(1809)刊行の『寓意草(ぐういそう)』に収録されたあと、大正3年(1914)に日本民俗学の創始者柳田国男によって『山島民譚集』に紹介され、全国的にも有名になった。

(以上『しきふるさと史話』 神山健吉氏記述より)

『しきふるさと史話』によると、和尚に助けられた河童伝説とは、以下のようなものである。

むかし、柳瀬川にすむ河童が馬や人間をおそうことがよくあった。

あるとき、15、6歳になる寺の小僧が馬を水あびさせようと、馬にまたがって川の中に乗り入れた。ところが、馬が急におどろいて川から飛び出したため、小僧は川の近くの田んぼの中にふり落とされてしまった。

小僧は田んぼからはい上がると、馬のあとを追いかけて、寺の馬小屋に着くと、馬が異常に興奮しており、不振に思って馬のまわりを見ると、10歳くらいの子どものような格好をしたものがいた。

小僧の手にかからんできたのを隅の方に連れて行って捕まえてみると、それは河童だった。

馬にかなり踏まれて弱っている河童を馬小屋の外に引きずり出したところ、近所の人たちも集まってきた、「柳瀬川で悪さをしているのはこいつだろう」「焼き殺せ」といって、大勢で積み上げた薪に火をつけはじめた。

河童は自分が焼き殺されることを知って涙を流し、手をあわせてまわりの人たちに許しを乞うた。

騒ぎを聞きつけて庫裡から出てきた寺の和尚は、このようすを見て河童をふびんに思い、人々に命乞いをしたり、弟子にしてやろうと衣を河童の体にかけてやった。

そして、「今後はぜったいに人や馬に危害を加えてはいけないよ」というと、河童はこれまでの自分の行いを悔い、地面にひれ伏して泣いた。

これを見た人々は河童をかわいそうに思い、川のほとりまで連れて行って川にはなしてやると、河童は泣きながら水の中に帰っていった。

その翌朝、命を助けてもらったお礼のつもりか、和尚の寝ているまくらもとに、鮎が2匹置いてあった。



旧村山快哉堂裏の河童
(内田栄信さん作)



享和元年水戸藩東浜で捕まったとされる河童
(ウィキペディアより)



宝幢寺の河童(中野大門会設置)

また、この事件があつてから、柳瀬川で人や馬が行方不明になることがなくなった。

(『しきふるさと史話』より)

このような河童の伝説は日本のいたるところに存在し、河童は日本人の誰もが知っている。サンタクロースと同じように「小学生の頃までは本当にいると思っていた」という人も知っている。なかでも特に岩手県遠野市にまつわる河童が有名だが、はたして遠野の河童が有名になったのも前述の柳田国男の『遠野物語』によるところが大きい。

やはり『遠野物語』に触発されて河童を研究し、河童村の村長にもなった大野芳氏はその著書『河童よ、きみは誰なのだ』の中で河童の由来を深く探っている。

驚くのは、河童に会ったという人を取材したり、河童の子どもを産んだという逸話を紹介したり、河童は単なる想像上の生き物ではなく、その存在は日本人の根幹にある何かと関連していることを示唆してショッキングでさえある。

河童の伝説は日本全国にあるが、呼び方も様々ある。それは、エンコ、カーカンバ、ガタロー、カワウソ、カワコゾー、カワソ、カワッパ、スイジン、カッパと非常に多い。カッパを意味すると思われる「河伯」は養老4年(720)成立の『日本書紀』に登場するという。そして「河童」という文字の初出は室町時代の『下学集』(1584年成立)であり、カッパという読み方が定着したのは近世になってかららしいので、思ったより新しい。

河童の姿という、頭に皿があり、背中には亀のような甲羅がある。そして手足に水かき、口が少しとんがり、緑色の体、というのが私のイメージだ。

だが、『河童よ、〜』によると、むかし目撃した(!)人によると「身長はおよそ60cmぐらいで、耳は見え、黒豆のような目が正面を向いて二つ並んでいる。手をだらりと前に垂らして立ち上がったとき、白っぽい腹部の毛が見えた。胸のあたりに赤みをおびた毛が生えていて、首からショールをかけたようにきわだっていた」とのこと。遠野の河童は赤いのである。

河童が、いま私たちがイメージするような形として定着したのもかなり新しいことのようにある。

さて、さきほどの志木の河童だが、宝幢寺周辺の檀家で組織されている「中野大門会」では、宝幢寺の河童伝説を永久に残そうと、河童の石像を造り境内に安置している。その河童はいかにも愛らしい。また、市内のあちこちには彫刻家・内田栄信氏による個性豊かな河童たちが、志木駅前をはじめ、柳瀬川の中、保育園や学校の中など16箇所設置されている。また、いろは商店街では河童のカップーをキャラクターとして様々なイベントを展開している。当会と(財)埼玉県生態系保護協会が推進する「志木まるごと博物館 河童のつづら」でも、柳瀬川の河童が名誉館長である。

どうも志木にいた河童たちは、いたずら好きだが、愛らしく、恩義を忘れず、まちのにぎわいにも貢献しているようだ。川がもっともっときれいになり、河童の目撃情報が寄せられる日が待ち遠しい。

【参考文献】

神山健吉ほか『しきふるさと史話』志木市教育委員会 1994
大野芳『河童よ、きみは誰なのだ 河童村村長のフィールドノート』中央公論新社 2000

ご意見を 募集します

〈志木市環境基本計画〉

志木市では、1999年に「環境基本計画」を策定し、10年経過したので現在改訂に向けて作業中です。

当時、当会から会員が多数参加し、市民主体で策定されたことが評価されましたが、その後の推進がかならずしもうまくいったとはいえない状況にあることから、今回はその反省に立ち、計画策定がそのまま推進につながるよう、市民会議（委員長：大滝孝久）は策定から推進までを担うことが予定されています。

今回も当会から、天田代表理事をはじめ、古谷・毛利・山口・山崎の5名の理事がメンバーとして参加しています。

7月骨子の作成と市民への公開に向けて現在協議中です。会員の皆さんからのご意見ご提案を計画に反映させていく方針ですので、是非メンバーあてにご意見をお寄せください。

〈作業部会と当会のメンバー〉

A部会（自然との共生）

天田・山崎・毛利

B部会（循環型社会の形成）

古谷

C部会（快適な都市環境の創出）

山口

2008年度 役員

理 事	天田 眞	再任	代表理事
	飯塚 伸夫	再任	
	伊藤 智明	再任	事務局長
	金子 秀樹	再任	
	北原 正代	再任	
	小島 敏文	再任	水と緑部会長
	古谷 俊明	再任	
	三浦 真奈子	再任	ごみとエネルギー部会長
	毛利 将範	再任	副代表理事
	山口 美智江	再任	副代表理事／まちづくり部会長
	山崎 光久	再任	
監 事	宇津木 美恵子	新任	
	吉田 孝	再任	

2008年度 予算（2008年4月1日～2009年3月31日）

特定非営利事業に係る事業（今年度の収益事業計画はありません）

●収入

（単位：円）

科 目	予算額	備 考
1 会費等収入	173,600	
個人会費	153,600	基本会員数 個人63 家族2
団体会費	10,000	団体2
賛助会費	10,000	賛助2
2 事業収入	83,400	
保全・管理・創出	0	
調査・研究	10,000	参加費等
観察会・学習・教育	63,400	参加費・謝金等
出版・広報	0	
エコツアー	10,000	参加費等
提言	0	
3 助成金収入	50,000	
志木市	0	
その他	50,000	民間助成金予定（エコツアー）
4 雑収入	25,000	
寄付金等	25,000	
その他	0	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	332,000	
前期繰越金	422,796	
収入合計	754,796	

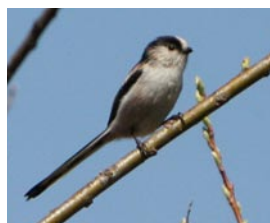
●支出

1 事業費	167,000	
保全・管理・創出	5,000	
調査・研究	14,000	
観察会・学習・教育	50,000	
出版・広報	30,000	通信作成、送料等
エコツアー	60,000	お宝マップ作成
提言	2,000	
保険料	6,000	年間保険料負担金
2 管理費	165,000	
租税公課	0	
旅費交通費	2,000	
通信運搬費	1,500	エコシティ志木通信を除く
消耗品費	1,000	
給与手当	0	
事務局経費	140,000	
印刷費	2,500	エコシティ志木通信を除く
参加団体会費	13,000	4団体分
会議費	2,800	有料会場費
雑費	2,200	
3 予備費	0	
当期支出合計	332,000	
当期収支差額	0	
次期繰越金	422,796	

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html>

《鳥類》

チョウゲンボウ(1) →2/25(月) キィ・キィ・キィ!!と鳴きながらカラスを追う(幸町1東電の鉄塔)【毛利】
エナガ(2) →3/24(月) いろは親水公園【山崎】
カワセミ(2) →4/14(月) 高橋付近【山崎】
ムナグロ(25) →4/20(日) 水谷たんぼ【毛利・望月・山崎】
コチドリ(2) →4/21(月) 水谷たんぼ【山崎】
ホオジロ(2〜) →4/27(日) 水谷たんぼ【田村・毛利】
イワツバメ(1) →4/29(水) いろは橋下【山崎】



↑エナガ 3/24 (山崎)



↑カワセミ 4/14(山崎)

《昆虫》

クビキリギス(声) →4/15(火) 幸町1【毛利】

《両生類》

ヒキガエル →3/16(日) 毎年啓蟄になると、庭にたくさん現れる(慶應の方から)が、今年は一匹も見かけない【寺田明子】

アズマヒキガエル(2匹で抱接) →3/16(日) 旧柳瀬川(味場地区)【毛利他】

《ほ乳類》

アブラコウモリ(1) →4/15(火) 幸町1【毛利】

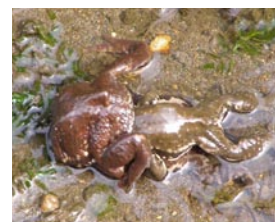
《植物》

河津桜(満開) →3/16(日) 慶應の庭【寺田】

チョウショウインハタザクラ(満開) →4/7(月) 長勝院跡【山崎】



↑ムナグロ 4/20 (山崎)



↑アズマヒキガエル 3/16 (毛利)

環境 ひとくちメモ(9) 伊藤 智明

北海道洞爺湖サミット(G8サミット)

G8サミットとは、日、米、英、仏、独、伊、加、露8か国の首脳及びEUの委員長が参加して毎年開催される首脳会議で、今年7月に日本が議長国となり北海道洞爺湖地域にて開催します。

北海道洞爺湖サミットの主要テーマのうち、環境・気候変動に関して日本は「地球環境問題でイニシアティブを発揮、特に2013年以降の次期枠組みに関する国連での議論を後押し」することを目指しています。具体的には以下の事などがあります。

●日本の「クールアース50」提案を受けて、2007年のドイツ・サミットでは「2050年ま

でに世界全体の温室効果ガスの排出量を少なくとも半減することを真剣に検討する」ことに合意。

●日本は、次期枠組み構築に際し、(1)途上国を含む主要排出国が全て参加すること、(2)柔軟且つ多様性があること、(3)省エネなどの技術を活かし、環境保全と経済発展とを両立することを重視。

●1月のダボス会議では、福田総理が、「ポスト京都フレームワーク」、「国際環境協力」、「イノベーション」を三つの柱とする「クールアース推進構想」を発表。



(出典)北海道洞爺湖サミット ホームページ <http://www.g8summit.go.jp/>

☆会員状況

2008年度更新済み会員 (5/21現在)

個人正会員 37

団体正会員 2

賛助会員 2

カンパをいただいた方

村野輝子さん 桑田恵美さん

西川武重郎さん 栗林菊夫さん

武藤邦昭さん 山崎光久さん

吉田孝さん 上田勲さん

〈物品カンパ〉

片山巖さん 上田勲さん

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2008年度分の継続
更新をよろしくお願
いします。

★宛名シールに会費
の有効期間が書いてありますので、
チェックしてください。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会

グループぽんぽこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木おやこ劇場

志木市コミュニティー協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川流域川づくり連絡会 (国土
交通省)

新河岸川流域川づくり懇談会 (埼玉県)

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

志木市立郷土資料館の 農具 その3

センバコギ



稲扱ぎに使われ、足踏脱穀機が普及する大正時代まで
使用された。以後昭和30年頃まで種籾を取るのに使用さ
れた。形状は二本の足に長さ60cm程の台木を渡し、そ
の台木に長さ約30cm程の鉄製の歯を櫛状に角釘と鋲で
固定したもの。

歯の間隔は広狭によって、大麦、小麦、陸稲用に区別
されていた。当館のセンバの歯の隙間の間隔は2～3
mmで25本ある。

使用方法は、前足にムシロをかぶせ、横木を打ち付け、
センバが動かないように重石をして、歯に麦の穂を引っ
掛けて脱穀した。

センバの脱穀では麦の穂先から切れてしまうことが多
いので、更にクルリボウによるボーチ作業が必要であった。

鉄製の歯が普及する以前は竹製の歯のセンバを使って
いたが、当館は竹製のセンバも収蔵している。

【執筆・撮影協力】

志木市立郷土資料館

〒353-0002中宗岡3-1-2 ☎ 048-471-0573 月曜日休館



宗岡閘門へ
PART2

むねおかこうもん

【写真提供】

天田 眞 さん

撤去前（上）：07年3月1日撮影

撤去後（下）：08年3月6日撮影

第46号（07年6月1日発行）の本欄でも紹介した宗岡閘門（むねおかこうもん）跡ですが、新河岸川の底さらいにあわせて完全に撤去されましたので、今回あらためて、わずかに残っていた痕跡と撤去風景の写真を掲載いたします。

舟運の便を図る目的で1929（昭和4）年に築造された宗岡閘門ですが、1931（昭和6）年には新河岸川舟運が廃止され、閘門の役目を終え1979（昭和54）年に解体され、その痕跡だけが30年ちかくも残っていました。

寛永15年（1638）の大火により消失した川越・東照宮と喜多院を修復するために新河岸川舟運が本格的に始まり、その後300年にわたり運営されてきました。その間、水運の興隆による引又河岸（明治7年以降は志木河岸）の繁栄、新河岸川の直線化、宗岡閘門築造、通船停止と、この地域の重要な河川である新河岸川は、昔から時代の変化をまともに受けて地域と共に変わり続けてきました。その歴史の一端を語り続けていた宗岡閘門跡も撤去され、変化し続ける新河岸川の新しい歴史がまた刻まれました。

（毛利将範）

コゲラ

コゲラは全長15cmほどの日本で一番小さいキツツキです。

キツツキの仲間は、世界に約200種、日本には11種います。そのうちのアリスイ・アカゲラ・アオゲラ・コゲラなどは志木の近くの秋が瀬公園や三芳の雑木林などで観察できます。林の少ない志木市内ではコゲラが留鳥として繁殖している他はアオゲラが数回記録されているだけです。

コゲラは「ギイー」という金属がきしむような独特な鳴き声を発します。あまり人を恐れないので、このギイーという声が聞こえたら、まわりの木を注意深く探すと、枝から枝へ移動するところを発見することができるでしょう。

白と黒の縞模様でスズメほどの大きさのコゲラは、小さいながらもキツツキとしての特徴をもち、木の幹をコンコンとつつきながら枝から枝へ移りエサを探しています。細く長い舌を樹皮の割れ目や、カミキリムシの幼虫があけた穴に差し込んで、舌の先のトゲと粘液で獲物を引っ張り出して食べます。

オスもメスもほとんど同じ模様ですが、オスの後頭部の両側には赤い小斑があります。普段は羽毛に隠れて見えないのですが、風の具合でチラリと見えることがあります。コゲラくんの



奥ゆかしいセックスアピールです。

ご存じのようにキツツキの仲間は、木の幹に垂直に止まりその頑丈なくちばしで木の幹に穴を開けて巣をつくります。コゲラもあの小さな体のどこにそんなパワーがあるのか不思議なくらいですが、直径3cmほどのまん丸できれいな穴を開けます。

ただコゲラは、巣穴を開ける木として、枯れ木か一部が枯れている木しか利用しません。都市部では倒木や枝の落下の心配がある枯れ木はなかなか残すことはできませんが、せめて斜面林や広めの公園など、人的被害が想定されない場所には、あえて枯れ木を少し残す工夫も必要かもしれません。

とはいえ、現状でもコゲラの姿は市内の市街地でもよく見かけます。どこかに営巣用の枯れ木をしっかりと確保しているのでしょうか。



志木市本町の公園で見つけた巣穴
(05年10月22日)

◇NPO法人になって6年目。普段の活動にはなかなか参加できなくても年会費を更新して支えてくださる方々の多さに改めて驚かされます。

◇そんな会員と普段の活動を結んでいるのがこの通信。今後もそのことに気を留めながらよりよい紙面づくりをしていきたいと思います。(ふくろう)